

# 読書ノート

3月来、ヤマト各地で桜開花のニュース、桜は平和、私も桜の下を歩きたい、ロシアではコンサトホルでテロ事件、多くの市民が日々犠牲に。人間を殺すなソコノ町を破壊しなソコノ

● 詩のころを読む 茨木のり子 著 岩波ジュニア新書9

“便所掃除 <sup>はまぐちくにお</sup> 瀨口 國彦 庭にクリスマスローズが

扉をあけます / 頭のしんまびくさくなります /  
 まともに見ることが出来ません / 神経まで  
 しびれる悲しいよこしかたです / 澄んだ  
 夜明の空気もくさくします / ……”

毎月一度、ゆっくりできるカフェで会う4人の仲間、本や旅や最近思うことを話したり、絵本の読み聞かせをしたり、たのしい午後。前回私は上の詩を朗読し、続いて茨木のり子の解説、感想は次の人が読んだ。

「たくさんの人に愛され今まで残ってきた詩、……便所掃除が詩になんぞ、西洋の詩神が知ったら腰をぬかすでしょう……」  
 4人の仲間は感心入って、しばらく便所の話。次回もぜひ他の詩を言読んでほしいと言われた。茨木のり子は私の好きな詩人、この本も今まで何度も手にした。新書版でバックに入れやすい。手元にあるほしい本。

“はじめに”のページにこう書かれている。  
 「いい詩には、ひとの心を解き放つくれる力があります。いい詩はまた、生きとし生けるものへのいとあしみの感情を誘いたたしめくれます。どの国でも詩は、その国のことばの花です。……」



## 厚揚げ「4-ズ」焼

里帰りの娘家族みんな「オイシイ」、カキはトスターで焼くまでを作って友だち宅へ。いっしょにお昼をたべて、とてもよろこばれた。

● 厚揚げ (絹厚揚げ2入り)

白ト7面を上にして並べる。この上に

オリーブオイル ← 味噌、マヨネーズをぬり、その上にちりめんしおいをまぶす。その上にピザ「4-ズ」をのせ、あれば「ネギ」「ハネリ」など、みじん切りふる。

250と5~7分、4-ズにうつらこけ目つくまで焼く

子ども用はノコ大に切っておく

# けやき通信 2024.4月 No.365

## — 錦織 佳代子 —

随分前から近所で子ども声か聞こえなくなった。スズメも、エサと木の2人でボールけりして笑う。あるわかゆに、近所なのに久しぶりに会った。来ただけ。私は庭のハンジ。シクラメンでしすがあ。小さな花束つくって70セント。

## 東京 神田 山の上ホテルの コーヒー・ホール

昔、月刊誌に「文化人の宿 山の上ホテル」という広告がよく出ていた。川端、三島ら文豪たちに愛された小さなクラシックホテル。

私は地図を片手にヒトリ坂道を上り、気品あるホールでひとりコーヒーを。ずうと昔のことです。帰りに古本屋を覗きました。このホテルも今年2月13日から休館との。竣工から86年。老朽化への対応検討のためとのこと。

喫茶店は生活の匂答点。  
 いい地いい人生の止まり木 みたいなの。だそうです。

## また行きたい あの喫茶店 — その② —

松本市中央 珈琲まるも 100年以上の歴史をもつ店。店内の便いこまれた椅子、テーブルはすべて松本民芸家具。となりのまるも旅館に泊まっておいしい朝食を食べたあとなのに、おいしいコーヒーとおいしいハンも。心やすらぐひととき。わかゆのイス、テーブル、整理ダンスも松本民芸家具。椅子の裏面に職人の名前が彫られてる。たくさんの友だちが座って楽しいひとときを過ごす椅子。家族みんながいらしたと伊の食事、けやき通信を書くのもこの椅子、テーブル。(今はあこたで)。松本は好きな町、何度も訪れました。また行きたいなあ。

